

課程 全日制

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3	学年	1	科	全学科
使用教科書		新編 数学 I（数研出版）							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを旨とする。		
評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
	- 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 - 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	- 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断したりしようとしている。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	具体的な項目
定期考査	◎	◎		学習内容の理解・表現
課題の提出			◎	学習の進歩の状況、過程・成果
学習状況の観察			◎	学習の主体性・授業への取り組み

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

- 主体的に学習に向かい、自ら思考し、教員や他生徒との対話等も活用して理解に努める。
- 課題は必ず提出すること。

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定 時数
一 学 期	4月	式の計算、実数	中間考查 左範囲まで	1 1
	5月	1次不等式、2次関数		1 3
	6月	2次関数の値の変化		1 3
	7月	2次方程式、2次不等式	期末考查 左範囲まで	1 2
				1 1
二 学 期	8月	三角比	数学 I	7
	9月			
	10月	三角形への応用（正弦定理と余弦定理）		1 3
	11月	データの分析（データの整理、データの相関）		1 3
		集合と命題		1 2
三 学 期	12月			
	1月			
	2月			
	3月			

合計 105 時間

課程 全日制

教科	数学	科目	数学 A	単位数	1	学年	1	科	全学科
使用教科書		新編 数学 A（数研出版）							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。		
評価の観点	② 知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	- 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 - 数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 - 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。	- 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断したりしようとしている。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	具体的な項目
定期考査	◎	◎		学習内容の理解・表現
課題の提出			◎	学習の進歩の状況、過程・成果
学習状況の観察			◎	学習の主体性・授業への取り組み

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・主体的に学習に向かい、自ら思考し、教員や他生徒との対話等も活用して理解に努める。
- ・課題は必ず提出すること。

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定 時数
一 学 期	4月			
	5月			
	6月			
	7月			
二 学 期	8月			
	9月			
	10月			
	11月			
三 学 期	12月	場合の数（集合と要素の個数、順列・組合せ）	数学 A	12
	1月	確率（事象、基本性質、独立な試行）		
	2月	確率（条件付き確率、期待値）		
	3月	図形の性質		
			期末考查 左範囲まで	11

合計 35 時間

課程 全日制

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4	学年	2	科	全学科
使用教科書 副教材		新編 数学Ⅱ改訂版（数研出版） スタディアップノート 数学Ⅱ改訂版（数研出版）							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分・積分の考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分・積分の考え方に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、式と証明、複素数と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分・積分の考え方における数学的な見方や考え方を身に付けている。	式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分・積分の考え方において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分・積分の考え方における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査		○	◎	◎	学習内容の理解・表現
課題の提出	◎				学習の進歩の状況、過程・成果
学習状況の観察	◎				学習の主体性・授業への取り組み

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・主体的に学習に向かい、自ら思考し、教員や他生徒との対話等も活用して理解に努める。
- ・課題は必ず提出すること。

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定 時数
一 学 期	4月	式と計算 等式・不等式の証明	中間考查 左範囲まで	1 2
	5月	複素数と方程式の解		1 3
	6月	高次方程式 点と直線		1 5
	7月	点と直線	期末考查 左範囲まで	1 0
二 学 期	8月	円	中間考查 左範囲まで	8
	9月	軌跡と領域		1 4
	10月	三角関数		1 4
	11月	加法定理 指数関数	期末考查 左範囲まで	1 4
三 学 期	12月	対数関数	期末考查 左範囲まで	1 2
	1月	微分係数と導関数		9
	2月	関数の値の変化 積分法		1 4
	3月	積分法		5

合計 1 4 0 時間

課程 全日制

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	4	学年	3	科	全学科
使用教科書 副教材		新編 数学Ⅲ改訂版（数研出版） スタディアップノート 数学Ⅲ改訂版（数研出版）							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	複素数平面、式と曲線、関数、極限、微分法・積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図る。また、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	複素数平面、式と曲線、関数、極限、微分法・積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、複素数平面、式と曲線、関数、極限、微分法・積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	複素数平面、式と曲線、関数、極限、微分法・積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	複素数平面、式と曲線、関数、極限、微分法・積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査		○	◎	◎	学習内容の理解・表現
課題の提出	◎				学習の進歩の状況、過程・成果
学習状況の観察	◎				学習の主体性・授業への取組み

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・主体的に学習に向かい、自ら思考し、教員や他生徒との対話等も活用して理解に努める。
- ・課題は必ず提出すること。

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定 時数
一 学 期	4 月	関数	中間考查 左範囲まで	1 0
	5 月	数列の極限		1 0
	6 月	関数の極限		1 4
	7 月	微分法（導関数） 微分法の応用（導関数の応用）	期末考查 左範囲まで	1 4
	二 学 期	8 月	積分法（不定積分・定積分）	中間考查 左範囲まで
9 月		1 8		
1 0 月		積分法の応用（面積・体積）	1 8	
1 1 月		式と曲線（2 次曲線）	期末考查 左範囲まで	1 8
三 学 期		1 2 月	式と曲線（媒介変数と極座標）	期末考查 左範囲まで
	1 月	複素数平面	6	
	2 月			

合計 140 時間

課程 全日制

教科	数学	科目	数学B	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書 副教材		新編 数学B改訂版（数研出版） スタディアップノート 数学B改訂版（数研出版）							

1. 科目の目標と評価の観点

目 標	数列、ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	数列、ベクトルに関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数列、ベクトルにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	数列、ベクトルの考え方において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数列、ベクトルの考え方における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査		○	◎	◎	学習内容の理解・表現
課題の提出	◎				学習の進歩の状況、過程・成果
学習状況の観察	◎				学習の主体性・授業への取り組み

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・主体的に学習に向かい、自ら思考し、教員や他生徒との対話等も活用して理解に努める。
- ・課題は必ず提出すること。

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定 時数
一 学 期	4月	等差数列	中間考查 左範囲まで 期末考查 左範囲まで	5
	5月	等比数列		5
	6月	いろいろな数列の和		7
	7月	階差数列		6
二 学 期	8月	1年の復習	中間考查 左範囲まで 期末考查 左範囲まで	1 5
	9月	【数学A 整数の性質】		
	10月	<平面上のベクトル> ベクトルとその演算		1 6
	11月	ベクトルの成分		
		ベクトルの内積		
三 学 期	12月	位置ベクトル、空間ベクトル	期末考查 左範囲まで	3
	1月	<空間のベクトル>		1 3
	2月			
	3月			

合計 70 時間

課程 全日制

教科	数学	科目	数学探究	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書 副教材		オーダー問題集 数学探究 （数研出版）							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	1 学年と 2 学年で学んだ高校数学の内容の定着を図り、それらを的確に活用する実力を伸ばすとともに、数学的な見方・思考方法を身につける。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	1・2 学年で学んだ内容を活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	1・2 学年で学んだ内容を通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査		○	◎	◎	学習内容の理解・表現
課題の提出	◎				学習の進歩の状況、過程・成果
学習状況の観察	◎				学習の主体性・授業への取組み

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・主体的に学習に向かい、自ら思考し、教員や他生徒との対話等も活用して理解に努める。
- ・課題は必ず提出すること。

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定 時数
一 学 期	4月	数と式		7
	5月	図形と計量	中間考查	7
	6月	場合の数・確率	左範囲まで	7
	7月	図形の性質	期末考查 左範囲まで	6
二 学 期	8月	複素数と方程式		6
	9月	図形と方程式		8
	10月		中間考查	
		三角関数	左範囲まで	8
	11月	指数関数・対数関数	期末考查 左範囲まで	8
三 学 期	12月	微分・積分		7
	1月	数列	期末考查	6
	2月	ベクトル	左範囲まで	

合計 70 時間